

日本独自の文化「掃除で心の内面を磨く」 校長 矢嶋 健二



多度津町立四箇小学校
<https://www.yoshino.ed.jp/>
yoshino

掃除は、仏教では「作務（さむ）」という修行の一つです。ブッダの弟子に周利槃特（シュリハンドク）というお坊さんがいて、自分の名前も覚えられないほど物覚えの悪い彼に、ブッダは1本のほうきを渡し、とにかく掃除をするように言いました。周利槃特は「ちりを払い、あかを除かん」と唱えながら、ひたすら1年、2年、10年…と、掃除を続けるうち、ある日、「ちりやあかとは自分の執着心のことだった」と気づき、悟りを開いたと言われています。

掃除は汚れを取るだけでなく、心の汚れやくもりを除き、「気づき」を与えることができるものです。「気づき」とは、自分がやっていることに向き合うこと。掃除は、体を動かし、五感を働かせながら空間の隅々にまで意識を行き渡らせるので、多くの気づきを与えてくれます。学校で掃除を子ども達にさせることは、そういう意味で教育的効果があると思います。

ところで、日本の小中学校では掃除は子どもたちが行うのが当たり前ですが、日本以外の海外の学校では子ども達が掃除をする習慣はありません。私がジャカルタ日本人学校に勤めていた頃、「日本の学校では子ども達がトイレの掃除を行っている」と話すと、現地の人から「それは子どもに対する虐待ではないか」と言われました。**日本では掃除が「心の内面を磨く」ことにつながる**と考えられていて、トイレも汚れて汚いものだからこよりいっそう掃除する価値があると考えられていると、植村花菜の歌『トイレの神様』を紹介して伝えると、「日本人らしい素敵なお考えですね」と感動してもらえました。

昨年のサッカーワールドカップでは、試合後に日本人サポーターがゴミ拾いをする姿が世界中に報道されました。また、試合後、日本代表の選手たちがロッカールームを掃除することも報道され、試合結果とともに世界中を感動させました。

四箇小学校では掃除の指導に力を入れています。6月は掃除場所で「掃除の達人」を見つけて紹介する取組を行いました。ご家庭でもお子様に、「掃除は日本の大切な文化、心を磨く大切な時間だよ」と話していただけるとありがたいです。



使用前 → 試合後



お気に入りの本を見つけよう！ ★読書まつり★



新しく取り組み始めた「読書の木」や、「雨の日のブックイズ」などで、本に親しんだり、図書室を利用したりしています。お家での読書は進んでいるでしょうか。夏休みには読書感想文の宿題もあります。今から本を読み進め、自分だけのお気に入りの1冊が見つかるといいですね。